

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和 8 年度 第 1 回 川西市地域公共交通会議		
事務局 (担当課)		土木部交通政策課		
開 催 日 時		令和 8 年 7 月 10 日 (金) 14 : 00～15:30		
開 催 場 所		アステ市民プラザ アステホール 1		
出席者	委 員	日野 泰雄、葉 健人 (WEB)、岸本 佳之、阿瀬 弘治 東山 仁、野津 俊明、松下 誠吾、杉本 勝広、武田 容美 竹原 弘二 (代理出席) 矢尾 哲雄 (代理出席)、片岡 篤、五島 孝裕		
	そ の 他 (オブザーバー)	小玉 嗣人		
	事 務 局	【土木部】 中澤副部長、金森課長、森本主査、續木主任、網永、岡崎		
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数	3 名 (内 Web 1 名)
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由				
会 議 次 第		1. 開会 2. 議事 (1) 会長、副会長の選任について (2) 川西市公共交通計画の令和 7 年度実績の評価について 【協議】 (3) 川西市公共交通計画の進捗状況について 【報告】 ①地域の移動課題対策支援事業 ②公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ③公共交通利用者増に向けた取組の実施 ④地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援 (4) 地域の移動課題対策支援事業 (牧の台地域) について 【報告】 (5) ポスター募集について 【報告】 3. その他 4. 閉会		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		

審議経過

発言者	発言内容等
事務局	<u>1. 開会</u> 時間となったので「令和8年度第1回川西市地域公共交通会議」を開催する。 まず、本会議の開催方法・開催要件等について説明する。本会議は「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項の規定に基づき公開する。また、本日は「川西市地域公共交通会議規則」第6条の規定に基づきWeb会議システムを活用して開催するとともに、「川西市地域公共交通会議の会議公開に係る傍聴要領」第2条第2項の規定に基づきZoomにてオンライン配信している。なお、オンライン配信にて視聴されている傍聴者の方については、Zoomの画面共有機能にて、会議資料を表示しながら行うが、市のホームページにもデータを掲載しているのでダウンロードして見ていただくことも可能である。 また、会議録作成のため、会議の録音を行い、会議録作成後は消去する。なお、会議録については、発言内容を事務局でまとめ、各委員の発言については名前を掲載しないこととする。また、会議録の承認については、会長の承認により行うこととする。 次に、本会議の委員の紹介だが、今回より新たに大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 交通・地域計画学領域の葉准教授が就任しているので一言挨拶をいただく。なお、葉委員はWEB会議システムの方法による出席となっており、会議開催前に事務局において「映像及び音声より本人であること」「映像及び音声の即時送受信が適正に行われていること」の2点について、確認がとれている。それでは葉委員から挨拶をお願いしたい。
委員	今年度の初回、また初めての参加にもかかわらず、現地参加できず申し訳ない。交通計画を専門としており、大阪府下の自治体で委員を務めている。微力ながら川西市に貢献していきたい。
事務局	本来であれば任期満了後、新たな委員が参加する最初の会議なので、ほかの委員にも一人ずつ挨拶をいただきたいが、時間の都合上、出席者名簿と配席図で確認いただきたい。 本日の出席委員数は、委員総数18名に対して13名が出席している。川西市地域公共交通会議規則第5条第2項の規定により、会議開催要件の半数以上の出席をいただいているので、本日の会議は成立していることをここで報告する。
事務局	<u>2. 議事</u> (1) 会長、副会長の選任について 本会議の委員の任期については、前回の本会議後の3月31日に一度満了を迎えたこ

発言者	発言内容等
	とから、新たに委員に就任いただいている。ここで、委員の委嘱に伴い、会長及び副会長を改めて選任する。 川西市地域公共交通会議規則第4条の規定に基づき、会長は委員の互選によって定める、また、副会長は委員のうちから会長が指名することとなる。まず会長の互選について、意見はあるか。
委員	事務局案の提示をお願いしたい。
事務局	委員より事務局案提示の意見をいただいた。事務局案として、昨年度まで本会議の会長を務めていただいた日野委員を会長に提案する。意見はあるか。
委員	異議なし
事務局	異議がないようなので、日野委員に会長をお願いしたい。日野委員いかがか。
会長	承知した。
事務局	承認いただいたので日野委員を会長とする。続いて、副会長の選任だが、会長から副会長を指名いただきたい。
会長	副会長には引き続き紀伊委員をお願いしたいと思うが意見はあるか。なお、本日、紀伊委員は欠席だが、事前に本人の意向は確認済である。
委員	異議なし。
事務局	異議がないようなので、紀伊委員に副会長をお願いする。 それでは、代表して日野会長より一言挨拶をいただきたい。
会長	委員から推薦と承認をいただいたので引き続き会長を務めさせていただく。今後も協力をお願いしたい。 最近国が中心となって空白地対策を含めたり・デザインを進めているが、先行事例では残念ながらり・デザインにより幹線ネットワークが縮小して逆に空白地・不便地が増えるといった例が出てきている。空白地対策には財政支援を強化すると報道があったが、仕組みとしては本末転倒である感じが否めない。運転士不足等やむを得ないこともあると思うが、今後はますます住民をはじめとする市民、事業者、行政の連携が重要になると思うので、どのように対応していくべきか、是非皆さんに意見を出していただきたい。 一方、ほかの自治体で地域に入ることがあるが、初めは皆さんに言いたい放題言われ

発言者	発言内容等
事務局	るが、自分達ができることやすべきことを理解していただくことで次のステップに進める。地域住民、事業者、行政が知恵を出し合う仕組みは非常に重要になってきている。川西市公共交通計画には事業者連絡会や地域の移動課題対策支援事業が入っているので、こういった事業の拡充が必要である。 幹線ネットワークが縮小すると、乗り換えが必要になったり、運賃負担が増えたり不便になることもあると思うが、何とか、必要なときに必要な場所へ行ける仕組みを維持すべきと考えている。そのためには計画の立案と進捗管理が必要になってくる。本日の議事にも計画の評価や進捗状況の報告が入っているので委員各位には積極的かつ建設的な意見をお願いしたい。 (2) 川西市公共交通計画の令和7年度実績の評価について 令和6年3月に策定した『川西市公共交通計画』について、令和7年度の評価結果を事務局より報告し、今後、国への報告、市HPへの公開にあたりその内容についてご協議いただく。 資料の構成だが、資料1-1については、計画に記載している目標数値の達成状況を令和7年度末時点で評価する様式となっており、基本方針毎に、目標、目標を達成するための取組、調査方法、達成状況と分析、評価・次年度に向けた課題や取組を記載している。横棒で示している項目については、調査方法の都合上、現時点では数値が把握できないため、今回は評価せずに数値判明後に評価することとする。 続いて、資料1-2については、目標を達成するために取り組む施策の進捗状況を示す様式となっており、令和7年度中に実施した施策は○、検討したが実施に至らなかった施策は△で表している。 時間の都合上、すべてを読み上げることができないため、一部抜粋して説明する。 それでは、資料1-1の1ページ目、基本方針1の目標である「自家用車よりも公共交通を利用することが多い市民の割合」をご覧ください。 実績値は毎年市が市民実感調査を実施しているもので、令和4年度の基準値45.1%に対し、令和7年度の達成状況は50.4%となっている。年代ごとに分析すると、20代～50代の比較的若い世代で自家用車よりも公共交通を利用することが多いという割合が令和6年度に比べて上昇していた。MMや利用促進活動を継続して実施していることから一定程度効果がでており、目標数値60%の達成に向けてMMや利用促進活動の継続、また、より一層効果的な取組を検討していくこととしている。 続いて、資料1-2の1ページ目、基本方針1の2つ目の施策である「モビリティ・マネジメントの充実」をご覧ください。 令和7年度に取り組んだ内容としては、小学生向けMMを8回、小学校の教員向けMMを1回実施したほか、小学校1・2・3年生向けの阪急バス副教材の市内小学校への配布、市民課窓口で転入者への阪急バスのノリセツ配布を挙げている。今後の課題としては、子どもから高齢者までの全世代を対象としたモビリティ・マネジメントを推進していくことがあげられ、今後の取組としては、学校MM、教員MM、住民MMに継続して取り

発言者	発言内容等
会長 委員 会長 委員 委員	組むこと、各地域や学校教育等で自主的に取り組んでいただける方法を模索することを挙げている。 事務局からの説明は以上である。 計画内の施策を実施したからといって鉄道やバスの利用者数を維持したり増やしたりするのは難しいかもしれないが、施策がどれくらい上手くいったかに重きを置いて評価することは大事である。目標があるなかで、何がどれだけできたかを是非みていただきたい。 山下駅・畦野駅・多田駅・鼓滝駅の利用者数は記載のとおりだが、全体の傾向的としては少子高齢化で利用者数は減少しているので、沿線に足を運んでいただくイベント等に取り組んでいる 一の鳥居駅については、近くにできた物流センターの DC1, DC2 の稼働に伴い、駅から送迎バスがでていたため利用者数が増えている。来年 DC3 が完成することで更なる利用者数の増加を期待している。また、キセラ川西の開発以降利用者数が増えていた絹延橋駅は、一旦落ち着くかと思っていたが、周辺のマンション建設等の効果もあり現在も利用者が増えている。 全体的には利用者数は減っているが、駅によっては増えているところもあるので、そういった状況を注視しつつ、イベント等も実施しながら、沿線に足を運んでいただけるような取組みを考えていきたい。 周辺の開発等は利用者の増加に影響を与えると思うが、一時的なものになる可能性がある一方で、外的な要因だけではなく、計画のなかに盛り込むような施策が出てくればよい。 昨年度は万博の影響や阪神タイガースのリーグ優勝が利用者の増加に影響している。万博の反動で旅客が減少すると予想していたが、比較的堅調に推移している。もう少し状況を見ていきたい。人口減少・少子高齢化といった状況ではあるが、観光や広告施策を関係者の皆さんとコラボレーションしながら取り組んでいき、沿線の活性化、地域のまちづくりに貢献していきたい。 令和 6 年度と比較すると 20 代～50 代の比較的若い世代での公共交通の利用が多いこと、分析としては MM や利用促進活動の効果があつたことが書かれているが実態としてはどうなのか疑問に思う。今の若い世代は自家用車を持たないことが当たり前なので、取組の成果だけではないと思う。 各事業者から報告があつた利用者数の増加は良いことだが、生活の足としての公共交通はどうかは気になるところではある。自分の住む地域ではバスの運行形態が大きく変更されたので利用者にとどのような影響が出るのかが気になる。

発言者	発言内容等
会長	イベントで利用が増えるのは嬉しいが、生活の足としての地域交通は考えていけないといけない。電車やバスありきではなく、色々な手段がある。バスは運転士が不足しているので増便は困難である。そういった状況を踏まえて、踏み込んだ話ができればと思う。 意見として頂戴した。そのほか特に異論はないようなので、中長期的に見れば今の状況を維持できるかは厳しいかもしれないが、令和7年度の評価については事務局案を承認いただいたこととする。
事務局	(3) 川西市公共交通計画の進捗状況報告について 『川西市公共交通計画』に記載している各施策について進捗状況を報告させていただく。 資料の1ページをご覧ください。このページでは、川西市公共交通計画に記載の基本方針ごとに各施策を示している。本日は、①地域の移動課題対策支援事業、②公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置、③公共交通利用者増に向けた取組の実施、④地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援について、報告させていただく。この一覧の見方についてだが、ほかの基本方針にも関連するものは、右側にカッコ書きで表記しており、また、赤字は重点施策である。 それでは、2ページをご覧ください。こちらでは、地域の移動課題対策支援事業の支援地区の現在の取組状況を報告させていただく。 牧の台コミュニティ地区では、バスの利用促進のため、5/9, 5/10 に大和バス無料 DAY を実施した。詳細は後ほど資料3にて説明する。 北陵コミュニティ地区では、コミュニティ内での移動課題を明確化するために、今後部会を立ち上げ、勉強会の開催を検討中である。部会のイメージは3ページに記載しており、部会員としては、葉委員、野津委員、武田委員、五島委員を想定している。 今後も、地域の主体的な取組を支援していくとともに、引き続き移動課題の解決に取り組む新たな支援地区を募集していく。なお、緑台・陽明コミュニティ、東谷コミュニティは支援地区ではあるが、6ページの「地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援」の項目に記載している。 4ページをご覧ください。こちらのページでは、「公共交通の維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置」について報告させていただく。事業者連絡会の設置目的については、各交通事業者が共通して抱える課題について解決策を検討し、解決に向けて協力して対策を講じることとしている。令和8年度は5/25に第1回を開催し、利用促進や渋滞対策、人員不足、情報発信について意見交換を行った。今後も引き続き事業者連絡会で意見交換を実施し、様々な課題解決に向けて対策を進めていく。 5ページをご覧ください。こちらのページでは、公共交通利用者増に向けた取組の実施状況について報告させていただく。昨年度に引き続き令和8年度も、市内開催の

発言者	発言内容等
	イベントへ公共交通で来場した方に帰り分の無料乗車券をプレゼントする取組を継続している。令和8年度は4月に開催された『清和源氏まつり』では阪急バス無料乗車券を287枚、能勢電鉄無料乗車券を300枚配布した。無料乗車券の配布時にアンケートを実施したので、内容については参考資料1をご確認いただきたい。次回は秋に開催の「交通安全フェア2026」で配布予定である。 6ページと7ページをご覧いただきたい。6ページでは、地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援について、地域の移動課題対策支援事業の支援地区である緑台・陽明コミュニティと東谷コミュニティの取り組み状況を、7ページにはそれ以外の地域の実施状況を記載している。 事務局からの説明は以上となる。
委員	事業者連絡会で相談・議論しているアステ前の渋滞・違法駐車対策について、実証実験後は明らかに違法駐車が減少し、渋滞が緩和されていると感じており、とてもありがたい。今後は北部から中心市街地への運行の定時性・速達性・効率性の確保に向けて、バス優先レーンがあまり機能していないことなどを相談させていただきたい。
会長	違法駐車対策は一定評価できるということだが、バス優先レーンについては、事務局から意見はあるか。
事務局	優先レーンについては、市HPでの掲載による啓発活動しかできていない。過去には阪急バスの社員に旗を振っていただいていたこともある。今後市でもできることを検討していく。
会長	警察の協力も必要だと思うが、警察で考えている取組はあるか。
委員	現状は特に考えることができていない。西多田の交差点あたりから車線変更等の影響で渋滞が発生し、左車線を走る一般車両やバイクが増えている印象がある。ただ、それだけで取り締まりを行うのは場所の選定も含めて難しい。
会長	以前、大阪でバス優先システム（PTPS）の導入に合わせてバス優先レーンを設定した際、最初は上手くいっていたが、少し時間経つと元に戻ってしまった。すぐに取り締まりということは難しいと思うので、行政・事業者の周知方法についてもさらに検討をお願いしたい。
委員	事業者連絡会は、タクシー・鉄道・バスそれぞれの事業者が参加しているのか。
会長	そのとおり。

発言者	発言内容等
委員	個人的には各事業者間の連携、特に乗り継ぎが重要だと考えている。こういった連絡会のような場がないと具体的なアクションを起こすことが難しい。なにか実現を求める訳ではないが是非話をしてほしい。
会長	利害関係が多くオフィシャルの場には結果として出てこないことが多いと思うが、個人的には腹を割って話をする場とし活用してほしいと思っている。 また、課題に応じて特定の事業者だけで議論するといったフレキシブルな活用もしてほしい。私も乗り継ぎ割引を実施してほしいとずっと言っているが、無理なら無理で何ができるのかといったことを継続的に議論することが重要だと思う。 いま言及されたことも事業者連絡会の話題として取り上げることは可能であると思う。資料に書いてある内容しか議論していないわけではない。 また、葉委員には今後北陵コミュニティの部会に入ってくださいことになるが、この場でなにか話すことはあるか。
委員	地域の方と話をする前なので、意気込みという形で申し上げる。地域に入って将来の交通をどうするかという活動は川西市以外でも色々やってきた。交通は御上から与えられ、それを便利だから使う、不便だから使わないという次元を超えて、住民と一緒に作り上げることが重要だというフェーズに入っている。そういったなかで部会という地域が強く関われる組織体制は非常に有効だと思う。ただ、その組織を作っただけで何か解決するわけではないので、ここからが大変であり非常に重要になるので一助になればと思う。
会長	イベント無料乗車券のアンケートについて、事務局として周知しておきたいことはあるか。
事務局	源氏まつりでの配布は今年度が2回目ということもあり、阪急バス 287 枚、能勢電鉄 300 枚と予定枚数を全て配布した。昨年を大きく上回る枚数になっており、市民の方にも少しずつ浸透してきたと感じている。これまで公共交通を利用したことがない、または利用頻度が少ない方に無料乗車券を配布し、便利だということを体感してもらって1割2割でも公共交通の利用に定着してもらうことが目的。すぐ効果がでるものではないと考えているが、今後どういう形で進めていくのか、分析しながら次への発展を考えていきたい。
会長	ほかの自治体ではある月の土日に市内全域無料 Day をやっているところがある。現在も継続的に実施し、定着率や無料以外の日との利用状況を比較・分析しているところである。若干ではあるが、効果がみられるとの報告がきている。 もう一点、現在はイベントに来た方に無料乗車券を配布しているが、もっと広域に考え、市外からきてもらうために、市内に限らず市外でも使える乗車券を配布することな

発言者	発言内容等
委員	ども次のステップとして考えていただけたらと思う。 ほかの自治体での事例を把握されている委員はいないか。 私の関わるところでは将来の利用者である小学生や中学生に配布する事例がある。公共交通に乗らない大人と話すと、子ども時代に乗ったことがなく乗り方がわからないといった声をよく聞く。
会長	事業者も含めて、事例があれば情報共有をいただきたい。 福祉部の訪問型支えあい活動について、事務局からなにか報告はあるか。
事務局	メインは福祉部が進めている事業ではあるが、交通政策課としても公共交通事業者との調整や道路運送法に抵触しないかなどに注意しながら関わっていく。
会長	本会議としても支援地区に認定している地域もあるので、今後も福祉部と連携を図り、進捗状況を都度報告していただきたい。
事務局	(3) 地域の移動課題対策支援事業(牧の台地域) 5/9, 5/10 に実施された大和バス無料 Day について報告させていただく。 まず、1 ページから 3 ページにはこれまでの経緯を記載しているので後ほどご覧いただきたい。 4 ページをご覧いただきたい。大和バス無料 Day は前回の地域公共交通会議で承認いただいた牧の台コミュニティ協議会の実施計画(案)に基づいて実施された。 運行本数は1日12便で、対象者は限定せず、何回でも利用可能とし、阪急バス大和団地線のバスを終日無料化した。 利用者は5/9 が大人277人、子ども236人の合計513人。5/10 が大人252人、子ども108人の合計360人となっており、2日間の合計は873人で、昨年の同時期と比較するとかなり利用者数は増えており、普段バスを利用しない人が乗るきっかけ作りになったと思う。今後、イベント後の利用者数とも比較し、バス無料 Day の効果検証を図りたい。 事務局からの説明は以上となる。
会長	部会として色々な活動を実施していただいております、その一つとしてバス無料 DAY の取組を報告していただいた。何か質問や意見はあるか。
委員	9日は大人と子どもの利用者数にあまり差がないが、10日は差がある。要因を把握しているか。

発言者	発言内容等
事務局	8/4 に部会を開催し、そこで地域から報告を受ける予定のため現時点で詳細は把握できていないが、9 日については地域内の北部でもイベントをしていたこと、10 日については中心部でのイベントのみだったことが影響しているのではないかと考えている。
会長	のぼりやノベルティについても支援事業の対象となるので、できるだけたくさんの人が集まっていただき、バスに乗る機会増やしていただきたい。 また、地域内の方だけではなく、ほかのエリアから来場してもらえないか検討してほしい。それには周知も必要だ。子育て世代は子どもを連れていけるイベントを探している方も多いので、そういった方をターゲットにしてもよいのではないかなと思う。広報を考える際はできるだけ広い範囲から来てもらえるようにすれば、バスや鉄道を使ってもらうことに繋がる。 今回の部会で地域代表から報告があるので、その内容は共有させていただく。地域としては、利用者数を増やすことで現在のバス路線を維持するという重要な課題もあるので、部会としてもバックアップしていきたい。
事務局	(4) ポスター募集について 前回会議で報告させていただいた、公共交通に関するポスター募集について、事業の概要や今後のスケジュールなどを説明させていただく。 1 ページをご覧いただきたい。この取組は、市内の小学生を対象に公共交通に関するポスターを書いてもらうことで、身近な公共交通の魅力を再発見してもらうというものである。また、家族にもポスターを通じて興味を持ってもらうことで、公共交通の利用促進を図るものである。 川西市の広報誌「milife (みらいふ)」で令和 9 年 2 月に特集を予定している公共交通に関する記事において、最優秀賞のポスターを掲載する予定である。 3 ページをご覧いただきたい。2 月広報誌掲載までの流れを示している。5 月に開催した令和 8 年度第 1 回事業者連絡会においてポスターのテーマを決定し、広報誌や教育委員会をとおして、10 月中旬頃までポスターを募集する。11 月～12 月頃に応募されたポスターの中から、委員の投票で入賞作品を決定し、次の会議で結果発表を行う予定なのでご協力いただきたい。最優秀作品については、2 月広報誌の掲載に向けて調整を進めていく。 4 ページをご覧いただきたい。ポスターテーマは、「かわにしのミライへつなぐ公共交通」に決定した。応募資格は市内の小学生で、市外の小学校に通う児童も対象としている。入賞作品数は最優秀賞が 1 名、優秀賞と交通事業者賞が低学年・高学年それぞれ 5 名の合計 21 名としている。入賞特典は、最優秀賞が賞状、図書カード 5,000 円相当、ノベルティの贈呈、広報誌 2 月号への掲載、市内の駅や施設等での掲示、優秀賞が賞状、図書カード 2,000 円相当、ノベルティの贈呈、交通事業者賞が賞状、ノベルティの贈呈としている。交通事業者には、ノベルティやポスター掲示の協力をいただきたい。

発言者	発言内容等
	事務局からの説明は以上となる。
会長	いまから内容を変更することは可能か。
事務局	小学校の夏休みの宿題にしてもらうよう教育委員会と調整を進めていることもあるので、内容によっては変更可能である。
委員	こういった取組をやっていただくのは非常にありがたい。公共交通全体では利用者数を大きく伸ばしていくことは難しい状況ではあるが、議事（１）の計画評価で公共交通を利用することが多い方が増えているという結果がでている。ターゲットをしっかりと絞って MM を実施している自治体は兵庫県下でも少ない。 入賞作品については、駅で掲示できるよう調整させていただく。良いポスターが集まることを期待している。地域のイベントは地元住民の方々に利用されることが多いと思うので、今回のポスターについても、地元の方の利用が最も多い川西池田駅で掲示するなど協力させていただきたい。今回のポスター以外にも、駅構内でのイベント周知の掲示などに協力できることがあると思う。
会長	最優秀賞のみ駅や施設で掲示となっているが、入賞作品全部は掲示できないのか。過去に関わった事例ではバス車内に掲示し、親に乗ってもらうということや、バスのアナウンスを子どもにってもらうといったことがあった。掲示内容は事業者含めて検討いただきたい。 以前水道週間のポスターを広報誌で見たが、入賞している学校に偏りがあった。また、全児童が応募したりなど応募総数が多くなった場合にどうするかが気になる。どのように教育委員会と調整しているのか。
事務局	応募に強制はできないので、各学校に同じように周知する。また総数は、各学校のなかで応募総数の 10～20%に絞って交通政策課へ提出してもらうよう調整している。 駅等での掲示内容については、事業者と調整する。
委員	能勢電鉄は一編成で枚数はどれくらい掲示できるのか。
委員	抱き合わせ等もあるのでご相談となる。
会長	広告収入の課題もあると思うが、公共性のあるものなのでご協力いただきたい。
委員	優秀賞は一般には周知されないのか。
事務局	広報誌の掲載は担当と相談となるが、HP へは掲載する。

発言者	発言内容等
委員	是非、能勢電鉄には一編成を車内吊りしてほしい。こどもだけではなく、親も乗ることに繋がると思う。
委員	テーマは「かわにしのミライにつなぐ公共交通」ということで、川西感を出してもらうことになると思うが、学校で絞ってもらう際に趣旨を理解してもらうことが必要ではないか。趣旨とは違う、ただ上手なだけのものを選ばれる可能性もある。
事務局	基準をしっかりと伝えたくて学校には選定してもらうようにする。
会長	事業者連絡会でテーマは色々でたが、ミライの公共交通は空を飛ぶなど子どもにもイメージしやすいが、「川西」をそこに入れるのはかなり難しいと思う。事務局としてもどうやって趣旨を伝えるかは工夫してほしい。
委員	<u>3. その他</u> 夏休み期間にわくわくキャンペーンを実施しており、夏休み期間に子どもが阪急バス全線乗り放題になる定期券を 1,000 円で発売している。近くでは川西能勢口で発売している。将来のユーザーになっていただくということで、バスに親しみを持っていただけたらと思っている。 また、スマホのアプリを活用したデジタルスタンプラリーを実施する。近くではキセラ川西せせらぎ公園がお出かけスポットになっており、キセラ川西・総合医療センターのバス停がチェックポイントになっている。
会長	この取組はホームページ等で周知しているか。
委員	ホームページで公開しており、沿線自治体のホームページでも周知いただいている。
会長	周知方法の良いアイデアがあれば今後も引き続き提案いただきたい。
事務局	<u>4. 閉会</u> 今回の会議については、11 月～12 月頃を予定している。詳細な日程は確定次第、連絡させていただく。それでは、本日の会議はこれで終了とする。 以上